

〈研究ノート〉地域に根差した博学連携を目指して —教科書単元・「総合的な学習の時間」年間指導計画を意識した地域の小学校への広報活動—

石崎 康弘

はじめに

当館の学芸課は県職員のプロパー学芸員4名と、富山県教育委員会から出向している教員（課長、主任、主任専門員）の3名で構成されている。筆者は令和3（2021）年度に高等学校から出向し、教育普及活動や主催事業の広報活動を中心に3年間携わっている。

令和2（2020）年度から、新しい学習指導要領が小学校から順次実施され、「社会に開かれた教育課程」として、子どもたちが未来を切り拓く資質・能力を社会とともに共有し、連携して育てていくことが示された。これにより以前にもまして社会教育施設である博物館は、子どもたちに体系的で良質な学習資源を提供する場として注目されるはずであった。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当館の観覧者数が大きく落ち込む中、令和5（2023）9月、立山博物館は立山エリアの文化観光拠点施設として、5か年計画での「立山博物館を中核とした文化観光拠点計画」に取り組むこととなる。

同年12月、学校団体数がコロナ禍前の水準に回復しない現状に鑑み、学芸課の教育普及担当を中心に、さらなる学校団体の利用促進について議論した。これを受けて、過去の学校団体の利用状況を洗い出すとともに、学校現場の学習ニーズをつかむため、小学校学習指導要領や立山町各小学校で使用される教科書および「総合的な学習の時間」の年間指導計画を調査した。

本稿はその調査から整理した知見を、地域の小学校への具体的な広報活動に役立てようと模索した実践の記録である。

1. 過去10年間（平成26年度～令和5年度）の学校団体の利用状況

過去10年間の立山博物館の団体観覧者数【表1】を見ると、平成26（2014）年度から令和元（2019）年度の観覧者数の平均が約72,000人であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響で、令和2年度には開館以来、初めて50,000人を下回った。令和3年度以降は回復の兆しが見えつつあるものの、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行した令和5年度も約62,000人と、コロナ禍前の水準に回復したとは言い難い。

学校団体の観覧者数は、コロナ禍前の平均が10,000人弱であり、団体観覧者数の約70%を占めていた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、学校行事がほとんど行われなかった令和2年度は20,000人を下回り団体観覧者数の62%に落ち込んだものの、感染症対策が緩和の方向に向かった令和3年度は87%、翌年度も78%を示し、一般団体よりも早い回復基調となっている。

来館された教職員からは、「コロナ禍で学校外で全く活動することが出来なかった子どもたちを、何とか遠足や校外学習に連れていきたい」という強い思いを聞く場面が多かった。学校外でのクラスや学年全体による教育活動がクラスの融和や学習に与える教育的意義について、教職員が強く認識しておられることを感じさせられた。

しかし、この一般団体より早い回復基調は、高等学校の遠足での利用、それも屋外エリアが広大でコロナによる入館規制が緩やかであった「まんだら遊苑」の利用需要が高まったことが要因である。高等学校以上に新型コロナウイルス感染症への対策が求められた小学校は、令和2年度は約1,200人となっており、前年

度から約4,900人の減、前年度比約80%減となっている。小学校団体の観覧者数は、コロナ禍前の観覧者数の平均が約6,800人に対し、コロナ禍中・後の観覧者数の平均は約2,300人であり、約65%減となった。このことから小学校団体への利用を、コロナ禍前の水準に回復させることが、当館の喫緊の課題といえよう。

【表1】年度別団体観覧者数

年 度	一般団体の観覧者数	学 校 団 体									団体観覧者総数	立山博物館(全施設)入館者数	立山博物館入館者数に占める学校団体の割合
		幼保	小	中	高	特支	高専 専門 短大	大	学校団体の観覧者数	団体観覧者総数に占める学校団体の観覧者数の割合			
平成26(2014)年度 *2	3,942	234	6,123	420	191	310		55	7,333	65%	11,275	66,857	11%
展示	2,547	23	2,381	140	23	95		38	2,700	51%	5,247		
遙望	1,030		2,106	140		75		17	2,338	69%	3,368		
遊苑	365	211	1,636	140	168	140			2,295	86%	2,660		
平成27(2015)年度	4,476	57	6,062	2,402	1,121	247		48	9,937	69%	14,413	71,838	14%
展示	2,929		2,142	1,027	688	63		25	3,945	57%	6,874		
遙望	956		2,114	983	23	110		23	3,253	77%	4,209		
遊苑	591	57	1,806	392	410	74			2,739	82%	3,330		
平成28(2016)年度	4,035	57	7,712	1,493	1,510	281	37	281	11,371	74%	15,406	77,245	11%
展示	2,790		2,821	827	898	111	37	269	4,963	64%	7,753		
遙望	660	22	2,677	153	408	107		12	3,379	84%	4,039		
遊苑	585	35	2,214	513	204	63			3,029	84%	3,614		
平成29(2017)年度	4,807	80	8,132	1,598	1,811	219		433	12,273	72%	17,080	75,630	16%
展示	3,017		3,133	861	781	53		277	5,105	63%	8,122		
遙望	640		2,609	183	359	98		116	3,365	84%	4,005		
遊苑	1,150	80	2,390	554	671	68		40	3,803	77%	4,953		
平成30(2018)年度	4,336	178	6,420	749	1,019	214	175	561	9,316	68%	13,652	63,661	11%
展示	2,967	41	2,727	184	680	64		422	4,118	58%	7,085		
遙望	571		1,910	171		93		102	2,276	80%	2,847		
遊苑	798	137	1,783	394	339	57	175	37	2,922	79%	3,720		
平成31・令和元(2019)年度	3,789	19	6,066	302	2,193	244	291	377	9,492	71%	13,281	77,390	11%
展示	2,081		2,021	151	1,284	75	127	272	3,930	65%	6,011		
遙望	632		1,907		164	47	30	58	2,206	78%	2,838		
遊苑	1,076	19	2,138	151	745	122	134	47	3,356	76%	4,432		
令和2(2020)年度	1,101		1,163	212	324		41	39	1,779	62%	2,880	47,503	4%
展示	808		563	99	162		41	13	878	52%	1,686		
遙望	86		266					13	279	76%	365		
遊苑	207		334	113	162			13	622	75%	829		
令和3(2021)年度	1,052	92	2,809	976	2,895	62		156	6,990	87%	8,042	57,010	12%
展示	579	24	1,221	482	1,135			86	2,948	84%	3,527		
遙望	99		659	103	253	31		43	1,089	92%	1,188		
遊苑	374	68	929	391	1,507	31		27	2,953	89%	3,327		
令和4(2022)年度	1,521		2,829	311	1,979	161	14	69	5,363	78%	6,884	64,621	11%
展示	690		1,006	72	712	37	7	69	1,903	73%	2,593		
遙望	290		642		180	74	7		903	76%	1,193		
遊苑	541		1,181	239	1,087	50			2,557	83%	3,098		
令和5(2023)年度	2,081		2,470	18	1,548	84	22	138	4,307	67%	6,388	62,371	11%
展示	1,157		1,099*1	9	710	28		56	1,902	62%	3,059		
遙望	297		410		210	28		41	689	70%	986		
遊苑	627		988	9	628	28	22	41	1,716	73%	2,343		
総計	31,140	717	49,786	8,481	14,591	1,822	580	2,157	78,161	72%	109,301	664,126	

*1 義務教育学校小学部の1校を含む

*2 4月、5月のデータなし

【表2】を見ると、県内の地域別学校団体数では富山市が多く、次いで立山町となっている。しかし、令和5年度の小学校数に対する利用割合でみると、立山町の利用が他に比べ、3倍以上となっている。これは距離が近いというだけでなく、立山町教育委員会管轄の町営バスを、電話予約とFAXでの本申し込みにより無料で使用できることから、複数学年の利用、同一学年でも学習のねらい、観覧施設を変えた複数回の利用が見られるからである。また、コロナ禍でも変わらず利用されていることもわかり、当館が立山町の小学校に支えられていることがよく分かる。

また、下欄を見ると、県全体ではこの10年間で、約9,000人の児童数が減少し、学校数は19校が減少したことがわかる。立山町では新瀬戸小学校（2016年休校、2019年廃校）、日中上野小学校（2019年休校し立山町立高野小学校へ統合）の2校が閉校している。今後も児童数は減少することが予想されることから、学校団体の利用促進は、やはり、当館としても大きな課題である。

【表2】年度別の地域別小学校団体数〈展示館・遙望館・まんだら遊苑〉

年 度	富山県内															富山 県外	国外	総計
	立山*1	富山	高岡	射水	黒部	魚津	上市	入善	南砺	滑川	砺波	小矢部	氷見	朝日	舟橋			
平成26(2014)年度 *2	17	55	16	10	6	7	2		2	3	1	1				4		124
平成27(2015)年度	16	62	15	3	3	8	2		1	2	2		2		2	16		134
平成28(2016)年度	23	80	15	6	5	6	2	3	3	3	2		2			18	1	169
平成29(2017)年度	9	89	18	11	4	5	2		3	5		1	1	2	1	20		171
平成30(2018)年度	14	60	14	5	5	3	2	5	2	2	4			1		17	2	136
平成31・令和元(2019)年度	24	61	9	9	8	2	2	1			3			1		13		133
令和2(2020)年度	15	13		2	1	1		4	1	1								38
令和3(2021)年度	15	36	13	5	3	7	7	4	5			6				4		105
令和4(2022)年度	13	30	11	3	5	2	1	4	3			2				3	3	80
令和5(2023)年度	17	30	11	4	3		3	2	3							11	1	85
過去10年間の学校団体数計	163	516	122	58	43	41	23	23	23	16	12	10	5	4	3	106	7	1,175
年間の学校団体数の平均	16	52	12	5.8	4.3	4.1	2.3	2.3	2.3	1.6	1.2	1	0.5	0.4	0.3			
学校数に対する利用割合	2.7	0.8	0.5	0.4	0.5	0.8	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.3			
地域別 小学校数	平成26(2014)年度	8	67	26	15	10	12	6	6	9	7	8	5	12	2	1	県全体の 児童数	55,277
	令和5(2023)年度	6	65	23	16	9	5	6	6	8	7	8	5	9	2	1		46,089
	10年間の増減	-2	-2	-3	1	-1	-7	0	0	-1	0	0	0	-3	0	0		-9,188

*1 立山町の小学校は同学年が複数回来館したり、複数学年が来館したりしている場合あり

*2 4月、5月のデータなし

2. 博物館と学校との相互理解の形成に向けて

小学校との連携にあたり、まずは学校と博物館の使命・機能の違いを確認し、小学校の教育活動の土台である学習指導要領、さらには教科・領域の教育活動の理解へと進めたい。

(1) 学校と博物館の使命・機能の違い

教育基本法（第六条2）によれば、学校は「教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない。」とされ、教育機関である学校では公教育の基本として、発達段階に応じた体系的、組織的な教育が行われている。

一方、博物館は、近年、求められる役割が多様化、高度化していることを踏まえ、令和4（2022）年4月、約70年ぶりに博物館法が単独改正された。改正された博物館法の目的について、「社会教育法に加えて、文化芸術基本法に基づき」（第一条）とあり、これまで博物館が果たしてきた資料の収集保管、その展示・教育及び調査研究という基本的な使命・機能を今後とも引き続き果たしながら、博物館が社会教育施設と文

化施設の双方の使命・機能を担うとされた。ここでは、博物館の社会教育機関としての使命、機能に注目したい。

小川（2019）によると、教育機関としての学校と、社会教育機関である博物館という「使命、教育システムの異なる機関における連携では、教員と学芸員との相互理解をたかめることが必要」（小川、2019）であることを指摘している。これは学校側の教員には、「博物館に対する興味・関心を高め、理解を深め、学校教育での活用に対する能力を涵養すること」（小川、2019）が求められ、博物館側の学芸員には、「学校がどのようなことを望み、協働で授業を実施したいのか、博物館見学を単元にどのように位置づけているのかなどについて理解をし、その手立てを用意すること」（小川、2019）が求められることとなる。

そこで学校現場がどのようなことを望み、どのように博物館を観覧したいのかという学校現場のニーズをつかむために、まずはその根底となる小学校学習指導要領と照らし合わせて、博物館が学校の教育課程にどのように位置づけられているのかを確認したい。

（2）小学校学習指導要領における博物館等の積極的な活用のすすめ

学習指導要領（平成29年公示）は、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指している。

子どもたちがこれからのよりよい社会を創る一員として、必要な資質や能力を育むために、各学校はその特色を生かした「カリキュラムマネジメント」を実現し、「主体的・対話的で深い学び」の視点で、学習過程の改善が望まれている。

新学習指導要領の総則（1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 第3 教育課程の実施と学習評価）では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた具体的な授業改善の方法として、地域にある社会教育施設等と連携し、それらの施設やそこにある資料、関連する機関・団体の人的資源を活用することにより、学習の充実を図るものとしている。

地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。

この新学習指導要領の総則を受けて、小学校の各教科・領域においても、博物館等の活用について、以下のように示されている。

社 会	博物館や資料館などの施設の活用を図ること。
理 科	博物館や科学学習センターなどと連携、協力を図りながら、それらを積極的に活用すること。
図画工作	地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること。
総合的な学習の時間	他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。

（文部科学省「学校教育における博物館等の積極的な活用」参考資料7より一部抜粋）

また、同資料には、「施設が提供する教材や教育プログラムを活用する、学芸員や指導員などの専門的な経験や知識を生かして授業する」など、博物館の積極的な活用を促している。

しかし、博物館は学校にとっては数ある社会教育施設の一選択肢に過ぎず、しかも一般的には敷居の高い

ところと感じられている。この心理的障壁が低くなれば、博物館は体系的で良質な資料、人材という学習資源を有するから、近年ますます多忙化が進む学校現場により貢献することが出来るのではないだろうか。

幸い当館では、開館当初から教員が教育普及活動に携わり、30年以上の実践を積み重ねている。たとえば、『「たてはく」へ行こう！ 見学の手引き』や、そのCD-ROM版『「たてはく」へ行こう！』は、立山登山や遠足の事前・事後学習をサポートするコンテンツが豊富で、博学連携の先進的な取り組みの一つといえる。これらさまざまな実践の蓄積をベースに、今後も当館の資料、人材を生かした学習コンテンツを作成、公開して、教員に気軽に利用してもらえるように整備していくことが大切であることを再認識させられた。

(3) 教科書の学習内容（単元）と当館展示内容の関連表の作成

(2)の小学校の3教科（社会科・理科・図画工作）について、今回、立山町教育センターのご協力を得て、立山町の各小学校で、令和6（2024）年度から4年間使用される教科書【表3】を調査した。そして、各教科の学習内容（単元）が、当館のどの展示内容と関連するのかを整理し、さらに教科書の学習内容（単元）と当館の展示内容をつなぐために、「展示内容を観る際のヒント」を加えたものが【表4】である。

当館は立山の歴史、信仰に関する展示が注目されることが多いため、小学校では6年生の社会科と結びつけた利用が多い。今回、上記の文部科学省「学校教育における博物館等の積極的な活用」参考資料7に挙げられた社会科、理科、図画工作の教科書を調査すると、理科や図画工作でも当館の展示内容と関連する単元があることに気づいた。これら3教科以外にも調査を広げることで、さらに幅広い教科からの観覧提案ができると感じた。これまで見落とされがちであった学年、教科からの観覧提案をすることで、これまで来館することの少なかった学年の利用につながるのではないかと考える。

また、社会科では平成28（2016）年度版教科書までは6年生の4月から「日本の歴史」を学習していたが、令和2年度版教科書からは、「政治」（4月～）→「日本の歴史」（6月中旬～）→「国際」（2月上旬～）へと進む構成に変更された。そのため、立山町の小学校の観覧が多い6～8月の時点では、当館の展示内容とつながりの深い平安時代や江戸時代について子どもたちは学習していないことが分かった。学習前であることを理解した上で、より丁寧に子どもたちの反応を見ながらの展示解説を心がけていく必要性を感じた。

【表3】立山町の小学校中・高学年で使用する社会科・理科・図画工作の教科書一覧

教科名	教科書名	出版社名
社会科	『新編 新しい社会 3』	東京書籍株式会社
	『新編 新しい社会 4』	
	『新編 新しい社会 5上』	
	『新編 新しい社会 5下』	
	『新編 新しい社会 6 政治・国際編』	
	『新編 新しい社会 6 歴史編』	
理科	『みんなと学ぶ 小学校理科 3年』	学校図書株式会社
	『みんなと学ぶ 小学校理科 4年』	
	『みんなと学ぶ 小学校理科 5年』	
	『みんなと学ぶ 小学校理科 6年』	
図画工作	『図画工作 3・4上』	日本文教出版
	『図画工作 3・4下』	
	『図画工作 5・6上』	
	『図画工作 5・6下』	

【表4】 小学校中・高学年の社会科・理科・図画工作の学習内容（単元）と展示内容との関連表

学年	教科	実施時期	教科書の学習内容(単元)	展示内容を観際のヒント	単元に関連する展示内容 〈学習活動に協力できそうなこと〉
3年	社会科	1学期	1.わたしたちのまち みんなのまち ◇学校のまわり 1市の様子	わたしのまちにある立山博物館ってどんなところ？	〈立山博物館各施設の概要説明、案内〉
		3学期	4.市のうつりかわり 1市の様子と人々のくらしのうつりかわり	人々が立山のブナの森から採れたものをどんなふうにくらしに役立てていたの？	○「ブナの森へ…」ブナの森から…（輪標、科縄、熊胆など）〈展示解説〉
	図画工作	3学期	絵を見て話そう 美術作品	立山曼荼羅ってどんな絵が描かれているの？	○「広まる立山信仰」立山曼荼羅の絵解きの座敷〈展示室での読み聞かせ〉
4年	社会科	2学期	3.自然災害からくらしを守る 1風水害からくらしを守る	立山では洪水からくらしを守るためにどんな工夫をしてきたの？	○「人のくらしと大地」水の源・立山、かすみ堤、用水の合口化、砂防ダム、安政の大洪水、跡津川断層、地震と活断層〈展示解説〉 ○「秀峰立山」刻まれる大地、せり上がる大地〈展示解説〉
			4.きょう土の伝統・文化と先人たち 1残したいもの 伝えたいもの	立山町芦峯寺に伝わる布橋灌頂会ってどんな儀式なの？	○「おんばさまに寄せたところ」布橋灌頂会の世界、閻魔堂、うば堂、うば尊像〈展示解説〉 ○「広まる立山信仰」立山曼荼羅の絵解きの座敷、諸国配札と出開帳の旅〈展示室での絵解き解説〉
	図画工作	2学期	言葉から感じて 物語などから	立山地獄の物語から感じることは？	○「立山に地獄あり」地獄の思想、今昔物語集、善知鳥〈展示室での読み聞かせ〉
5年	社会科	3学期	5.わたしたちの生活と環境 1自然災害を防ぐ	立山では洪水から生活を守るためにどんな工夫をしてきたの？	○「人のくらしと大地」水の源・立山、かすみ堤、用水の合口化、砂防ダム、安政の大洪水、跡津川断層、地震と活断層〈展示解説〉 ○「秀峰立山」刻まれる大地、せり上がる大地〈展示解説〉
			2わたしたちの生活と森林	立山のブナの森はわたしたちの生活とどうつながっているの？	○「ブナの森へ…」ブナの森から、水の源・立山、ブナの根、ブナの森の土〈展示解説〉
	理科	2学期	◎川と災害	立山では過去にどんな災害があったの？	○「人のくらしと大地」水の源・立山、かすみ堤、用水の合口化、砂防ダム、安政の大洪水、跡津川断層、地震と活断層〈展示解説〉 ○「秀峰立山」刻まれる大地、せり上がる大地〈展示解説〉
図画工作	2学期	言葉から思いを広げて 物語などから	立山地獄の物語から思いを広げると？	○「立山に地獄あり」今昔物語集、善知鳥〈展示室での読み聞かせ〉	
6年	社会科	1学期	2.日本の歴史 2天皇中心の国づくり	その頃の立山ってどんな様子だったの？	○「立山信仰の世界」万葉集と立山〈展示解説〉
			3 貴族のくらし		○「立山が開かれる」信仰の山、立山の修験の遺物【剱岳出土銅錫杖頭と鉄剣、大日岳出土銅錫杖頭（いずれも国指定重要文化財）】、立山開山〈展示解説〉 ○「立山に地獄あり」地獄の思想、今昔物語集〈展示解説〉
			4 武士の世の中へ		○「立山に地獄あり」地獄の思想【銅造帝釈天立像（国指定重要文化財）】〈展示解説〉
		5 今に伝わる室町文化	○「立山に地獄あり」地獄の思想、善知鳥〈展示解説〉		
		2学期	7 江戸幕府と政治の安定		○「おんばさまに寄せたところ」布橋灌頂会の世界、閻魔堂、うば堂、うば尊像〈展示解説〉 ○「広まる立山信仰」立山曼荼羅の絵解きの座敷、諸国配札と出開帳の旅、立山を守った人びと〈展示解説〉
			8 町人の文化と新しい学問		○「立山に登拝する」立山登拝のようす、宿坊界隈の賑わい、岩峯寺・芦峯寺〈展示解説〉 ○「広まる立山信仰」立山に寄せたところ〈展示解説〉
	9 明治の国づくりを進めた人々		○「新しい時代の中へ」廃仏の嵐の中で〈展示解説〉		
理科	2学期	⑦大地のつくりと変化 ◎火山の噴火と地震	立山はどうやってできたの？	○「人のくらしと大地」安政の大洪水、跡津川断層、地震と活断層〈展示解説〉 ○「秀峰立山」刻まれる大地、せり上がる大地、立山の生い立ち〈展示解説〉 ○「特異な景観」地獄谷、高原の早苗田―餓鬼の田圃〈展示解説〉	
図画工作	2学期	言葉から想像を広げて 物語などから	立山地獄の物語から想像を広げると？	○「立山に地獄あり」地獄の思想、今昔物語集、善知鳥〈展示室での読み聞かせ〉	

今回は立山町の小学校の教職員に、他学年、他教科での利用を促すための、博物館側の基礎資料としての整理であった。県外の県立博物館では、福島県立博物館『小学校における博物館学習指導の手引き』、千葉県立中央博物館「先生のための中央博活用ガイド」、熊本博物館『派遣授業学習プログラム集（Vol. 3）』のように、学習指導要領に沿って教科書単元と展示資料との関連を整理するだけでなく、その成果をもとにした学習プログラムをまとめ、配布している事例も見られる。

当館においても地域の教職員の声をいただきながら、展示資料の写真や展示内容に基づく学習活動の事例も盛り込んだ内容にブラッシュアップしていきたい。学年、教科の学習内容に応じたきめ細かな展示解説、学習支援につながり、学校団体の学習満足度を向上させ、学校団体のリピーターの増加にもつながると考える。

(4) 各校の「総合的な学習の時間」の学年テーマおよび校外学習、出前講座の利用状況

小学校は、学校の教育目標を定め、子供たちに身につけさせたい力をつけるために、6年間を見通して各学年のテーマを設定し、「総合的な学習の時間」の年間指導計画を作成する。こちらも立山町教育センターのご協力を得て、立山町各小学校が年度当初作成する「教育指導計画」（令和5年度）掲載の「総合的な学習の時間」の年間指導計画について調査した。各学年のテーマ及び単元に関連する展示内容等と校外学習、出前講座の利用を一覧にしたものが【表5】である。

【表5】立山町各小学校の「総合的な学習の時間」の学年テーマ（単元）と関連する展示内容および校外学習、出前講座の利用状況

学校名	「総合的な学習の時間」の学年テーマ	関連する展示内容等	校外学習	出前講座
立山	[3年] 立山校区の「すてき」発見！<地域> [4年] チャレンジ！地球を守り隊<環境> [5年] だれもが過ごしやすい地域へ<福祉>	立山博物館施設の紹介	H26(2)、 H28(3) H29(2)、 H30(2)	H29、H30
	[6年] わたしの立山研究<地域の自然・歴史・文化>	<3階>「ブナの森へ…」、「人のくらしと大地」、「秀峰立山」、「特異な景観」 <2階>「立山信仰の世界」、「立山が開かれる」、「立山に地獄あり」、「おんばさまに寄せたところ」、「立山に登拝する」、「広まる立山信仰」、「新しい時代の中へ」	R1(3)、R2(2) R3、R4 R5	
立山北部	[3年] 北部っ子たんけんたい ・すてき発見！北部っ子たんけんたい～いいこといっぱい、わたしたちのまち～ [4年] ともに生きる [5年] 見つめよう！立山の暮らし ・受け継ごう	立山博物館各施設の紹介	H28、H29 H30、R1 R2、R3(2) R5(2)	
	[6年] 周りを知って、自分を見つめて ・わたしの立山研究 (25)	<3階>「ブナの森へ…」、「人のくらしと大地」、「秀峰立山」、「特異な景観」 <2階>「立山信仰の世界」、「立山が開かれる」、「立山に地獄あり」、「おんばさまに寄せたところ」、「立山に登拝する」、「広まる立山信仰」、「新しい時代の中へ」		
	[3年] 地域を知ろう [4年] よりよいくらしを考えよう [5年] 社会との関りから見つめよう			
立山中央	[6年] Think Globally, Act Locally ・立山～過去・現在・未来～（活動場所：立山博物館・まんだら遊苑）	<3階>「ブナの森へ…」、「人のくらしと大地」、「秀峰立山」、「特異な景観」 <2階>「立山信仰の世界」、「立山が開かれる」、「立山に地獄あり」、「おんばさまに寄せたところ」、「立山に登拝する」、「広まる立山信仰」、「新しい時代の中へ」 <まんだら遊苑> 地界・陽の道・天界・闇の道	H27(3)、H28(3) R1(3)、R2(3) R3、R4(2) R5	H30、R3、 R4、R5
	[3年] みんなで発見！立山町のじまん ・立山町について情報を集めよう。 [4年] くらしと環境—地球を守るアースレンジャー— [5年] 地域の中で共に生きる学ぼう！ ・伝えよう！BOSAI [6年] 立山の魅力 大発見！～見て・聞いて・話そう～ ・「立山」研究（立山博物館を見学したり、学芸員の話聞いたりする。）	立山博物館各施設のパンフレット等の提供	H27、H28(3) H29、H30 R1(2)、R3 R5	R1、R2、 R3、R5
[全学年共通] 「ふるさと（利田）」 [3年] ぼくらの 大すきな町 利田 ・ふるさと理解・追究方法を学ぶ [4年] 地球戦隊エコレンジャー ・ふるさと理解・環境教育 [5年] 触れ合おう！感じよう！見つめよう！ ・ふるさと理解・キャリア教育	<3階>「ブナの森へ…」、「人のくらしと大地」			
利田	[6年] 伝え残そう ふるさとのよさ ・ふるさと理解・伝統をつくり受け継ぐ	<3階>「ブナの森へ…」、「人のくらしと大地」、「秀峰立山」、「特異な景観」 <2階>「立山信仰の世界」、「立山が開かれる」、「立山に地獄あり」、「おんばさまに寄せたところ」、「立山に登拝する」、「広まる立山信仰」、「新しい時代の中へ」	H28、H29、 H30、R1(2)、 R2、R3(2)、 R4、R5	H29、H30、 R1
	[3年] 知ろう！釜ヶ淵のみりよく！<自然・郷土> [4年] 植物の命のひみつを探ろう<環境> [5年] 釜ヶ淵安心安全プロジェクトⅡわれら、釜ヶ淵サポーター<福祉>	<3階>「ブナの森へ…」、「人のくらしと大地」	H26、H28、 H29、H30、 R1、R3(2)、 R4、R5	R5
[6年] 発見、立山の魅力！<郷土>自分の魅力！<共生>	<3階>「ブナの森へ…」、「人のくらしと大地」、「秀峰立山」、「特異な景観」 <2階>「立山信仰の世界」、「立山が開かれる」、「立山に地獄あり」、「おんばさまに寄せたところ」、「立山に登拝する」、「広まる立山信仰」、「新しい時代の中へ」			

※校外学習の（ ）内の数字は利用回数

立山町の小学校は校外学習等でほぼ毎年来館しており、先述した町営バスを利用して、同じ年度に複数学年、観覧施設を変えての複数回の観覧をしている学校もあり、ここからも地域の小学校に支えられていることがよく分かる。

また、立山町の小学校6校のうちの2校が、当館での活動を「総合的な学習の時間」の年間指導計画に明確に位置付けており（表中の太字の部分）、校外学習、出前講座の利用がコロナ禍でも維持され、他の4校以上に利用率が高い傾向にある。他の4校も6学年で郷土学習をテーマに設定しており、6年時の利用が多いという実態を裏付けるものとなっている。

6学年以外でも「立山研究」、「防災」、「環境」を学年テーマにあげている学校があり、3階の自然系の常設展示の内容などを紹介することで、6学年以外の学年の利用を促すことができるかもしれない。

広報活動をさらに一步踏み込んで行う上で、各学校の年間指導計画に位置づけてもらうようはたらきかけることは、恒常的な地域に根差した連携につながると考える。今後、地域の小学校の教育目標、学年テーマを理解し、博物館側から何が提供できるかを整理し、明示して、伝えていくことは有効であると考えられる。

(5) 「総合的な学習の時間」での立山博物館活用実践例の蓄積

教職員に「総合的な学習の時間」での立山博物館の活用実践例を紹介することも、博物館利用を促すことに効果的であると考えられる。筆者が勤務した3年間で特色のあった活用事例を整理したものが【表6】である。

【表6】「総合的な学習の時間」での立山博物館活用実践例

学校名	年 度	実施月	内 容
立山町立高野小学校 6年 大岩慧斗教諭	令和3年度	6月	立山登山の事前学習として、教育普及担当が出前講座（対面）「立山の自然と歴史」を実施。
		10月	学習発表会では「立山にドキリ！～佐伯有頼、立山の開山～」と題して、立山の歴史や立山地獄、登山を通じた自分自身の成長等について劇で発表。
		11月	立山登山（7月）の事後学習として来館し、教育普及担当が常設展示の展示解説を実施。
		2月	教育普及担当が、「立山研究についての総合発表会」にオンライン参加。
射水市立下村小学校 5・6年 村田夏樹教諭	令和3年度	10月	立山方面への遠足の事前学習として、教育普及担当が出前講座（オンライン）「立山の自然と歴史」を実施。
		10月	遠足の際に来館し、教育普及担当が、常設・企画展の展示解説を実施。
		11月	遠足の事後学習、発展的な学習として、教育普及担当が、出前講座（対面）「お地蔵さまの歴史—地域の文化財に目を向けよう—」を実施。
南砺市立南砺つばき学舎 5・6年 太田千秋教諭 沼田涼平教諭	令和5年度	6月	立山登山（隔年）の事前学習として、教育普及担当が出前講座（対面）「立山の自然と歴史」を実施。
		8月	立山登山の際に来館し、教育普及担当が、常設・企画展の展示解説を実施。
		10月	学習発表会で、出前講座を通して立山に興味をもち、立山登山に至るまでの学習、出会い、登山体験を劇にした「たてやマスターへの道のり」を発表。

令和3年度はコロナ禍にあり、学校現場ではZOOMによるオンライン授業やタブレット端末の1人1台の導入が進んだ。当館でも同年、初のオンラインでの出前講座を実施した。子どもたちの反応をつかみにく

いというデメリットはあるものの、移動時間が省略できるというメリットもあり、感染症の拡大状況や学校のニーズに応じた、講義形態の選択が可能となった。また、令和5年度には、YouTube「たてはくチャンネル」を開設し、来館前の事前学習等の利用をすすめるため、広報誌「たてはく」などで紹介している。

今後も活用実践例を蓄積し、学校との事前打ち合わせの電話対応時や下見時、来館時でのコミュニケーションの中で、紹介し、具体的な提案をしたいと考える（もちろん、押しつけは控えて）。また、ホームページや広報誌「たてはく」などで、活用実践例を紹介していただくことも効果的だと考える。

3. 地域の小学校への広報活動の状況

(1) 学校向け広報活動についての協議

令和5年9月の文化観光拠点施設の認定を受け、「立山博物館を中核とした文化観光拠点計画」に取り組むこととなり、年度毎の観覧者数の目標値が設定された【表7】。

【表7】5か年計画での来館者数の目標値

	実 績		目 標				
年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標値	5.7万人	6.5万人	7.0万人	7.5万人	8.0万人	8.5万人	9.0万人

雪深い立山博物館では冬季の入館者数が極端に少ないことから、12月時点で5か年計画の初年度の目標値である7万人が達成できないことは明確であった。教育普及担当としては、来年度の学校団体観覧者数を増やすには、どのような広報活動に取り組みばよいか議論した。まずはこれまでの教員の教育普及担当が学校の実情、要望に寄りそった丁寧な学校対応を積み重ねてきた強みを生かし、よりきめ細やかな学校対応を心がけていくことを確認した。

次に、コロナ禍であきらかに減少した学校団体数を、まずはコロナ禍前の水準に戻すためには、これまで通りに広報物を各市町村の小・中学校棚、県の高校棚に棚入れするだけでなく、一步踏み込んだ広報活動が必要との共通理解を得た。そこで、公立の博物館ではあまり見られないようだが、民間企業で俗にいう「営業をかける」ように、博物館の教育普及担当が直接学校に足を運び、校外学習や探究的な学習の場としての学校団体の利用を、教職員と顔を合わせて伝えようという意見が出た。一方で、文化観光拠点施設化への準備作業という例年以上の業務量に加え、新たな広報活動が加わることは時間と労力、経費が削がれ、準備作業の進捗が遅れるといった懸念もあった。

しかし、最後は教員として学校現場をよく知る岡田知己館長の「たくさんの学校団体にご来館いただき、広く子供たちに立山の自然と歴史を伝えたい」との思いから、今回初めて教育普及担当が学校現場を直接訪れ、リニューアルにかける思いを伝えることに決定した。

広報する順は、立山博物館が文化観光拠点施設として、今後一層、地域に根差した博物館を目指して、平素からの利用の御礼かたがた、まずは立山町教育委員会、立山町の小学校6校から始めることとした。各校の窓口である教頭先生に連絡し、日程、ルートを調整し、隣接地域である富山市大山地区の小学校4校と立山町内の中学校1校、さらには高等学校16校も訪問することとした。（本稿では地域の小学校向けの広報活動について述べる。）

(2) 学校向けリーフレットの作成

学校現場で教職員に広報活動をする際に、まずは当館の魅力を伝え、学校側のニーズに沿った（掘り起こす）広報物が必要と考えた。広報物は教職員が引率時に実際に使用できるマップとしての機能と、当館の最

新トピックおよび教育普及活動について紹介する機能を有した内容にしたいと考えた。内容を検討する中で、情報量がかなり多いこと、教職員の引率時の携行性を重視したことから、背広のポケットに入るA4・二つ折りサイズ、フルカラーの両面印刷とした。

表紙には、立山博物館が文化観光拠点施設としてリニューアルを順次進め、ホームページ、高精細「デジタル立山曼荼羅」のタッチパネルモニターの設置、YouTube「たてはくチャンネル」開設といった、最新のトピックを記した。【写真1】

裏面には、学芸課に教員が配属され、開館以来32年間の学校対応で蓄積してきた強みを整理し、学校からの団体見学における問い合わせにはプラン作りから丁寧に対応することや、自由見学の際のオリジナルワークシート（小学校高学年向け）があること、要望に応じて展示解説も行うことなどを記した。また、校外学習や立山登山の事前学習に、学校からの要望に応じて時間、内容、講義形態（対面・オンライン）等も対応する「出前講座」についても紹介している。【写真2】

また、当館の各施設は13haの広大な敷地に点在しており、学校が見学の計画を立てる際は、移動時間、見学時間の目安が必要となることから、見開きには当館全体のマップを掲載した。当館にはすでにガイドマップ「たてはくガイド」（A4・片面印刷）があり、各施設の概要、所要時間の目安、危険箇所、トイレが記載されていたが、今回さらに、学校の引率者からの問い合わせが多い、昼食場所、記念撮影のおすすめスポットなどもマップ上に記載した。【写真3】

なお、学校種によって博物館に求めるニーズは大きく異なるのだが、今回のリーフレットは、予算の関係から学校種別のものを作成することができなかった。したがって、小学校学習指導要領、教科書、年間指導計画から得た知見を、このリーフレットに直接落とし込むことはできなかった。今後、リーフレット作成の予算、時間を広報計画に位置付けて、学校種に応じた広報物の作成も必要であると思う。

【写真1】リーフレット表紙



【写真2】リーフレット裏面



【写真3】リーフレット中面

立山のふもと、東京ドーム 2.8 個分の広大な敷地に魅力ある施設が点在！

(ご計画のご参考に！)

【展示館】1フロア40名程度



3層「ブナの森」での展示解説

【教算坊】40名程度



希望があれば
立山曼荼羅の絵解き解説も

【山岳集古未来館】40名程度

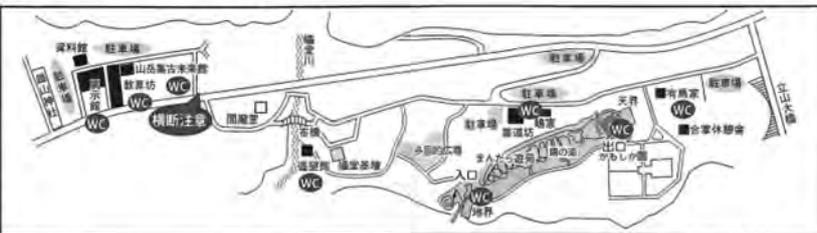


入ってすぐに展示されている
巨大な神輿2基は必見！

各施設の所要時間の目安

- 展示館 <常設展>
- 3階(立山信仰の舞台) <20分> + 2階(立山信仰の世界) <30分>
- ※夏と秋に特別企画展を1階で開催 <20分>
- 教算坊および庭園 <15分>
- 山岳集古未来館 <15分>
- 透望館(立山の信仰、自然がわかる映像) <50分>
- ※10時、11時、13時、14時、15時から(上映時間 40分)
- まんだら遊苑(立山曼荼羅の世界を五感で体験) <60分>
- 展示館⇒(10分)⇒問魔堂⇒(3分)⇒布橋⇒(3分)⇒透望館

展示館+教算坊+山岳集古未来館を
1時間でまわるコースが人気です！



2階で立山曼荼羅の展示解説



2階透り場は
おススメのフォトスポット！



展示館前で記念撮影

【問魔堂】



羅漢さまには何でもお見通し！
※戸締り厳重な施設ですが、内部も見学できます。

【布橋】



布橋選抜会の舞台のひとつ
悪い子は連れられないかも！

【透望館】小学生で120名程度



3面マルチスクリーンで
観る映像は迫力満点！

【まんだら遊苑】



①地界
針山地帯など、他へい地形体験ができる！
②龍の道
立山への名所のモチーフが並び、登山体験！
③天界
天狗宮でゆったりと！

リニューアルした当館のホームページにも、校外学習や探究的な学習に役立つページがございます。また、見学の申し込み方法などもアップしておりますのでご覧ください。

「居場所」
 遊べれば立山を見ながら、雨なら、善道坊や有馬家などの中でどうぞ！




(3) 地域の小学校および関係各位への広報活動を行った成果と課題

学校現場において、次年度の行事計画を検討し始めるのが、1月中・下旬であることから、1月執務始め後すぐに、立山町教育委員会、立山町各小学校の教頭先生にアポイントを取り、1月中旬には広報活動を実施する計画であった。

しかし、令和6年1月1日に、能登半島地震が起り、立山町も震度5を記録した。各学校は元旦から児童、教職員の安否確認や施設の被害状況の把握に追われることになった。当館の被害状況は幸い軽微だったものの、広報活動の初動が遅れ、すべての予定が1、2週間程度遅れることになった。立山町教育委員会への挨拶が1月下旬にずれ込み、立山町内の小学校6校、富山市大山地区の小学校4校への広報は、1月末の実施となった。【表8】。

また、今回初めて、立山町教育委員会を通じて、立山町校長会(2月定例)、立山・舟橋地区PTA連合会(2月定例)の会場に伺い、広報の機会を得た。

【表8】令和6年1、2月に行った地域の小学校および関係各位への広報活動の流れ

広報日	広報先	重点的な広報内容	担当者
1月25日	立山町教育委員会 (立山町教育長、教育課)	<ul style="list-style-type: none"> 立山エリアの文化観光拠点施設としてのリニューアル事業の概要 立山町小・中学校への利用のお願い 平素の町営バス配車のお礼 	館長 教育普及担当 2名
1月30日 2月1日	立山町小学校 6校	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の学習内容と関連付けた幅広い学年での利用 「総合的な学習の時間」の学年テーマに応じた幅広い学年での利用 町営バスを利用した複数回、複数学年の利用（ねらいや観覧施設を変えて） 校外学習、出前講座の利用 	教育普及担当 2名
	富山市大山地区小学校 4校	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の学習内容と関連付けた幅広い学年での利用 「総合的な学習の時間」での利用 校外学習、出前講座の利用 	
2月21日	立山町・舟橋村区域PTA連合会 <雄山中学校・校長室>	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動での利用 家庭での利用 	教育普及担当 2名
2月26日	立山町校長会 <立山中央小学校・会議室>	<ul style="list-style-type: none"> 立山エリアの文化観光拠点施設としてのリニューアル事業の概要 学習指導要領における博物館の積極的な活用 町営バスを利用した年間に複数回、複数学年の利用（ねらいや観覧施設を変えて） 出前講座の利用 	館長 教育普及担当 1名

地域の小学校を訪問させていただくと、校長先生（不在の場合は教頭先生）が大変丁寧に丁寧に対応して下さり、こちらの説明に熱心に耳を傾けて下さった。また、校長先生ご自身の立山博物館への引率経験について語られることも多く、教育普及担当が学校対応時に心がけるべき視点を得ることが多かった。こちらの準備不足もあり、約15分の対話の中で、各校それぞれの「総合的な学習の時間」の学年テーマや各教科の学習内容に即した提案を行うのは難しかった。ただ学校現場から出向した教育普及担当ならではの学校現場への共感にもとづく対話により、気軽に博物館を利用できる雰囲気を感じ取っていただけたように感じた。

なお、大山地区の小学校4校は、当館との距離は比較的近いものの、立山町のように無料の町営バスを使用することはできない。校長先生との対話からも、利用したくても交通手段がなく（保護者への負担増に配慮して）、立山登山やスキー実習といったバスを利用する行事に絡めた場合のみ、利用の可能性があること示唆された。

また、今回、地域の小学校10校（近隣の富山市大山地区の小学校4校を含む）を、2日間で訪問する計画であったため、訪問時間を放課後に設定することはほとんどできず、児童を直接引率する担任とお話することができなかった（アポイントがとれた担任も、突然の業務が発生し、説明することができなかった）。担任に直接広報するには、長期休業期間のゆったりした時期であることと、管理職が事前に広報があることを周知していただかない限り、多忙な学校現場の最前線にいる担任へ広報をすることは難しいと感じた。

今回初めてであった立山町校長会では、岡田館長が立山町教育長をはじめ、各小・中学校長に、立山エリアの文化観光拠点施設としてのリニューアル事業の概要、学習指導要領における博物館の活用などについても、15分程度説明した。今後さらに地域に根差した博学連携を進める際、立山町校長会での広報は地域の学校からの理解を得、信頼を醸成する土台となるものと感じた。また、立山町・舟橋村区域PTA連合会では、

各校のPTA会長にPTA活動での利用、ご家族連れでの利用を伝えることができたことも、当館の活動への理解を深めるだけでなく、子どもたちの学校外の学びの場を広げる意味でも有益であったと考える。どちらも継続していきたい。

学校が来年度の教育課程および学校行事を検討するのが1月中旬であることと、当館も冬季には学校対応がほばない現状からして、概ね1月中旬に学校を訪問する計画で問題はなかったように思う。しかし、能登半島地震という予測不能な事態であったとはいえ、広報活動の初動が遅れ、すべての予定が1、2週間程度遅れたことは悔やまれる。

今後、立山町教育委員会の挨拶を1月上旬に行い、立山町校長会も1月の定例会で広報できるように設定できれば、各学校へのアポイントも校長先生を通して教頭先生に事前に伝わり、より円滑に行えるように考える。あるいは、11月ないし12月の立山町校長会で館長より各校長先生に広報し、冬季の長期休業期間に教育普及担当が各校を訪問し、教頭先生、さらにはより子どもたちに近い教務主任、担任に広報するという流れでもよいかもしれない。

- 【案1】〈1月上旬〉立山町教育委員会(教育長・教育課) → 立山町校長会(校長)
〈1月中旬〉各小学校(教頭・教務主任)
- 【案2】〈11月あるいは12月〉立山町教育委員会(教育長・教育課)
立山町校長会(校長)
〈冬季休業期間〉各小学校(教頭・教務主任・担任)

青木(1997)によると、立山博物館では、東・西教育事務所主催の、魚津市、高岡市、砺波市の校長会で広報を行っていた。児童、小学校が減少する中、学校への利用を促すためには、【表2】「年度別の地域別学校団体数」をもとに優先順位をつけて、今回の立山町校長会への広報活動のように、博物館側からはたらきかける必要性を感じている。

また、『富山県の体育・スポーツ(令和4年度版)』には、小学校の立山登山実施状況が示されており、コロナ禍により、令和2年度に1校のみ(前年度79校)の実施、令和3年度はやや回復して28校の実施であった。立山登山の事前・事後学習での利用の多い当館としては、憂慮すべきデータであり、今後このデータを集約している生活環境文化部スポーツ振興課と連携し、実施校への焦点を絞った広報活動も検討してみたい。

他にも、以前は近隣の社会教育施設との連携として、国立立山青少年自然の家主催「合同事前打ち合わせ会」(年8回程)にて教育普及担当が自然の家を利用する学校団体に直接広報をしていた記録がある。こちらも年間の広報計画に位置付けることを検討している。

今後、さらに学校現場からのご意見を伺い、より効果的な広報時期・広報相手を検討し、令和6年度以降の広報活動に生かしていきたい。

(3) 令和6年度の教育機関および社会教育機関への広報活動

3月上旬、4月からの新体制となった各校種の学校に、他の広報物と合わせて、学校向けリーフレットを配布する計画を立てた。【表9】

当館では、4月、6月、8月、10月の年4回、関係者や関係施設などとともに学校への広報活動を行っている。

また、当館は夏休みのイベントとして、親子で立山について楽しく学ぶ「たてはく探検隊」(7月下旬)と、展示館を赤くライトアップして「地獄博物館」に変身する「ミュージアムdeナイト」(8月上旬)を毎年開催し、子どもたち、保護者から好評を得ている。6月広報では、両イベントのチラシを立山町の小学校、富山市大山地区の小学校には直接持参し、教室での掲示、児童の参加をお願いしている。

【表9】令和6年度 学校教育普及活動での広報物・刊行物の配布先一覧

広報物配布先	広報物 配布方法	4月広報					6月広報					8月広報			10月広報			
		総合チラシ	令和6年度催し物案内	学校向けリーフレット	広報誌「たてはく」1/3月号	研究紀要	前期特別企画展ポスター	前期特別企画展チラシ	「文化講演会」チラシ	「たてはく探検隊」チラシ	「ミュージアムdeナイト」チラシ	広報誌「たてはく」6月号	年報 第33号	後期特別企画展ポスター	後期特別企画展チラシ	前期特別企画展図録	広報誌「たてはく」10月号	後期特別企画展図録
公立小学校(立山町、富山市大山地区のそく) 157校	各市町村棚	1	5	3	1						1						1	
立山町立小学校 6校	立山町棚	1	5	3	1		1	2	1	学級数	学級数	1		1	2		1	
富山市大山地区小学校 4校	富山市教委棚	1	5	3	1		1	2	1	学級数	学級数	1		1	2		1	
私立小学校 1校	県 棚	1	5	3	1							1						1
公立中学校(雄山中学校のそく) 校	各市町村棚	1	5	3	1							1						1
立山町立雄山中学校	立山町棚	1	5	3	1		1	2	1		学級数	1		1	2		1	
私立中学校 1校	県 棚	1	5	3	1							1						1
公立義務教育学校 3校	各市町村棚	1	5	3	1							1						1
県立・私立高等学校 51校	県 棚	1	5	4	1	1	1	2	1			1	1	1	2		1	
富山県立雄山高等学校	持 参	1	5	4	1	1	1	2	1		1	1	1	2	1	1	1	1
特別支援学校 14校	県 棚	1	5	4	1	1	1	2	1			1	1	1	2		1	
富山大学教育学部附属小・中・特支 3校	富大教育学部棚	1	5	3	1							1						1
富山大学(人文学部・教育学部)	持 参	20	20	1	1	1	1	20	20			1		1	20	1	1	1
富山大学教職大学院	持 参	15	15	1	1	1	1	15	20			1		1	15	1	1	1
富山大学(芸術文化学部)	郵 送	5	10	1	1	1	1	10	10			1		1	10	1	1	1
富山国際大学(子ども育成学部)	郵 送	5	10	1	1	1	1	10	5			1		1	10	1	1	1
富山県総合教育センター	県 棚	20	20	1	1	1	1	5	1			1	1	1	5		1	
富山県民生涯学習カレッジ	持 参	20	10	1	1	1	1	20	2			1	1	1	20	1	1	1
生涯学習カレッジ地区センター(富山・新川・砺波・高岡)	県 棚	20	10	1	1	1	1	20	2			1	1	1	20	1	1	1
東部教育事務所・西部教育事務所	県 棚	10	10	1	1	1	1	5	1			1	1	1	5		1	
各市町村教育委員会(立山町、富山市のそく)	持 参	20	20	1	1	1	1	5	1			1	1	1	5		1	
立山町教育委員会	持 参	20	20	1	1	1	1	10	10	10	10	1	1	1	10		1	
富山市教育委員会	持 参	20	30	1	1	1	1	5	10			1	1	1	10		1	
国立立山研修所	持 参	20	20		1	1	1	20				1	1	1	20	1	1	1
国立立山青少年自然の家	持 参	20	20		1	1	1	20				1	1	1	20	1	1	1

おわりに

本稿では、コロナ禍により減少した来館者数が回復しない現状に鑑み、過去10年間の学校団体の利用状況を振り返り、小学校学習指導要領、教科書、「総合的な学習の時間」の年間指導計画の調査をもとに行った、地域の小学校への広報活動について紹介した。

令和6年度以降、今回の広報活動の成果を、地域の小学校からの観覧者数、観覧回数について数量的に検証するだけでなく、当館を利用した満足度についてもアンケート等により質的に検証し、他市町村の小学校への広報活動にも役立てたい。

また同様に、中学校、高等学校にも校外学習や「総合的な学習の時間」等での活用を促していきたい。

富山県では時代、地域を越えて、子どもたちは美しく聳え立つ立山に抱かれながら、日々暮らし、学び、育っている。以前ほどではないが、今も県内の小学生の多くが立山について学び、その仕上げとして仲間とともに立山に登る。

学校の教育活動で立山について学ぶ意義は、単に個人の立山に対する理解、愛着を深めるためではなく、

世代を越え、地域を越えて、富山県民としての根っこにつながることであろう。当館は富山県民のアイデンティティの象徴ともいえる立山について、自然から歴史・文化・信仰まで総合的に学べる県下唯一の博物館である。当館に与えられた使命、役割は大きい。子どもたちが楽しみながら当館で立山について学び、富山で生きることの誇りや愛着を育めるように、今後も学校との連携を図っていきたい。

【謝辞】

本稿作成にあたり、以下の皆様にご協力いただきました。ここに記して、お礼を申し上げます。(順不同、敬称略)
立山町教育委員会、立山町教育センター、大岩慧斗、太田千秋、坂林 樹、田中幸生、沼田涼平、宮崎旬平、岡本宏一、村井政雄、村田夏樹、毛利成宏

【引用論文】

- ・青木正邦「博物館における広報活動—立山博物館の現状と課題—」(『研究紀要』第4号所収、富山県 [立山博物館]、1997年)
- ・小川義和「博学連携は何のために」(『生物教育』第60巻 第30号所収、一般社団法人日本生物教育学会、2019年)

【主要参考論文・文献等】

- ・小川義和『協働する博物館 博学連携の充実に向けて』(ジダイ社、2019年)
- ・宮前一郎「博学連携と利用促進のために—大阪歴史博物館利用校のアンケート調査から—」(『大阪歴史博物館 研究紀要』第13号、大阪歴史博物館、2015年)
- ・大谷直紀「さきたまの博学連携」(『埼玉県立史跡の博物館紀要』第12号、埼玉県立さきたま史跡の博物館、2019年)
- ・澤登一浩「研究ノート 南アルプス市教育委員会文化財課と協働した博学連携の実践的考察—郷土をコアとしたカリキュラムマネジメントへの示唆を求めて—」(『創大教育研究』第29号、創価大学教育会、2019年)
- ・清水香保里「学校と博物館が学び合える場を目指して：川越小学校の博学連携による教育活動の可能性を探る—」(『教育研究所紀要』28巻所収、文教大学、2019年)
- ・近藤良子・川向富美子・米田寛「岩手県立博物館における博学連携の意義と課題—体験学習室資料の製作をとおして—」(『岩手県立博物館研究報告』第39号、岩手県立博物館、2022年)
- ・大柳麻美「若年層に向けた来館意欲を高める事業について」(『神奈川県立歴史博物館報告—人文科学—』所収、神奈川県立歴史博物館、2023年)
- ・青木正邦「博物館と学校教育との連携—ジュニアワークシートを利用した小学校の実践を通して—」(『研究紀要』第2号所収、富山県 [立山博物館]、1995年)
- ・青木正邦「博物館と学校教育との連携Ⅱ—ジュニアミュージアム講座を利用した小学校の実践を通して—」(『研究紀要』第3号所収、富山県 [立山博物館]、1996年)
- ・青木正邦「博物館と学校教育との連携Ⅲ—見学の手引き作成を通して—」(『研究紀要』第5号所収、富山県 [立山博物館]、1998年)
- ・高木三郎「学校教育における立山登山の歴史—小学校を主として—」(『研究紀要』第11号、富山県 [立山博物館]、2004年)
- ・岡田知己「博物館と学校教育の連携Ⅳ—「総合的な学習の時間」等における出前講座の実践報告—」(『研究紀要』第15号所収、富山県 [立山博物館]、2008年)
- ・森山義和「富山県小・中・高等学校等の教育活動に関わる「立山」についての一考察」(富山県 [立山博物館] 令和2年度前期特別企画展解説書『立山があるある展』所収、富山県 [立山博物館]、2020年)
- ・吉野俊哉「越中人、そのアイデンティティと立山と」(富山県 [立山博物館] 令和2年度前期特別企画展解説書『立山があるある展』所収、富山県 [立山博物館]、2020年)
- ・『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』(文部科学省、2018年)
- ・『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』(文部科学省、2018年)
- ・『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編』(文部科学省、2018年)
- ・『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編』(文部科学省、2018年)

- ・『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な時間の学習編』（文部科学省、2018年）
- ・立山町教育センター『わたしたちの立山町』（立山町教育委員会、2014年）
- ・『富山県の体育・スポーツ（令和4年度版）』（富山県生活環境文化部・富山県教育委員会、2023年）
- ・福島県立博物館『小学校における博物館学習指導の手引き』（福島県立博物館、1989年）
- ・千葉県立中央博物館「先生のための中央博活用ガイド」（千葉県立中央博物館、2011年）
- ・熊本博物館『派遣授業学習プログラム集（Vol. 3）』（熊本博物館、2020年）
- ・『「たてはく」へ行こう！』（富山県 [立山博物館]、1998年初版）
- ・CD-ROM『「たてはく」へ行こう！』（富山県 [立山博物館]、2011年）